

難病講演会

「在宅難病患者の防災」

H30.11.1 保健センター 5階

質疑応答

Q1：人工呼吸器の発電機は専用のもを購入したほうが良いのか？

- （長尾先生）精密機器なので普通の発電機は使用しない方がよいと業者には言われる。
- （フィリップス）電磁波が特殊なので、電力にノイズが発生し、実際に使えないこともあった。パソコンの波形に似ているので、パソコンでも使用できる発電機なら、まだよいのではないかと推奨されている訳ではないが。
- （ALS 協会岩本会長）市販の発電機は安全性が担保できないと販売業者から言われた。呼吸器などはバッテリーで対応できるものは発電機を使わず、電動ベッドやパソコンなどを発電機で対応しようと考えている。

Q2：事業所に発電機を備蓄している。車のインバーターでも対応できるか？

- （フィリップス）正弦波の方がよいと思う。当社にある機器で試してみることはできる。市販されている2000～3000円のインバーターを使って試してみたが、実際に電源が入らなかった。医療用を使用した方が望ましい。

Q3：ご近所の方との関係性はどのように作られたのか？

- （長尾先生）告知後7年は誰にも言わなかった。その後、孫の運動会に呼ばれたことをきっかけに外へ出ていくようになった。
- 防災訓練の時は、まず民生委員さんや消防団員に声をかけた。病気になってから長いため、徐々に周囲に知られ、関係ができてきた。声をかける前は悩んだが、一声かけるとみんな集まってくれた。田舎の強みでもあると思う。
- 子どもには、「父親は悪いことをした訳ではないので胸を張って欲しい」と伝えた。

Q4：訓練の時、本人に不安はなかったか？今後期待することは？

- （長尾先生）三重県での避難訓練を見て必要性を感じ積極的だった。不安はなさそうだった。周囲に参考にしてほしいという気持ちが強かった。ただ、本人は家が一番安全と言っている。

Q5：予測可能な災害時のネットワークは？

- （長尾先生）うちは部屋や車にリフトをつけている。万が一の時は、息子や近所の人に手伝ってもらって車で避難しようと考えている。しかし、実際どこへ避難すればよいかわからない。台風の時も「どこへ行けばええんかな」と話しながら自宅で過ごしている。

Q6: 慢性呼吸不全の患者は ALS 協会のような患者会がなく、情報が入ってこない。保健所などで、過去の事例みたいなものはあるか？

→ (長尾先生) 会員以外の情報はわからないが、保健所へ講演会などの依頼をしてみるの
はどうか。同じ病気の方を集めて会を作る活動をしてみてはどうか。私たちも行政へ直談
判をした。

交流会記録

A グループ（西側）

・勝賀中学校が指定避難所だが、不安。福祉避難所はどういう所があるのか。公開されているのか。

（危機管理課）障害福祉施設が7か所、老人ホーム、老人保健施設等もあり、市内に50か所施設と災害時の受入れに関する協定を締結した福祉避難所がある。西日本豪雨などの災害も踏まえ、災害が発生しそうな時からの受け入れも考え、柔軟な受け入れができるように考えていきたい。しかし、避難所では、医療の提供ができないため、平常時からかかりつけ医に相談し、受け入れ医療機関を確保しておくことが大切である。南海トラフ等の大規模災害では、広域的な避難を想定しなければいけない。

・いつ逃げたらいいか。どうやって避難したらいいのか。住んでいる地域の特性によっては、自宅が安全かもしれない。きめ細やかな情報提供をしてほしい。避難訓練をしたいと考えている。受け入れ可能な避難所があればと思う。

（危機管理課）防災マップで自宅周辺の状況を確認して、避難情報が自分に向けた情報かどうか判断してほしい。

・事業所で、重度身体障害者を24時間体制で支援している。災害時、支援者も被災した場合、医療機関に受け入れについて、協議したが、受け入れ不可という回答だった。施設との連携はできているので広域避難所があればと思う。また、停電の場合不安である。

（危機管理課）障害者福祉施設は、障がい福祉課が窓口になっている。福祉避難所は高松市のホームページで確認できる。2年前、女木でため池が決壊したとき、協定を締結していた老人保健施設に受け入れてもらったこともあり、今年の7月豪雨の土砂災害時には、平時に利用していた施設にショートステイで対応してもらった市民もいました。

（県健康福祉総務課）難病協力病院があり、毎年、災害時に何床受け入れてくれるか問い合わせしている。医療提供体制や役割分担について、情報発信していきたい。

・困ったときに、介護タクシーはすぐに対応してくれたことがあるが、避難時の移送は課題だと思う。

（危機管理課）県と市、タクシー協会が協定している。市と個人タクシー協会も協定を締結しており、災害時には、市から協会に移送をお願いすることができる。

B グループ（東側）

- ・予測可能な災害時でも、どこへ避難すればいいかわからない。なるべく家から出たくないと思ってしまう。避難するとなると荷物も多くなる。家族一人では対応できない。

（長尾先生）電力会社や消防へ事前連絡しておくのはどうか。計画停電の際は電力会社から連絡があり、発電機を貸してくれる。

（障がい福祉課）台風や豪雨の時は、役所内に水防本部ができる。どこが浸水している、どこに逃げ遅れた人がいる等の情報は水防本部に集約されている。まず、水防本部へ連絡し、困っていることを伝えれば、対応を検討する。まず SOS を出すことが大切。

- ・民生委員が1度訪問してくれたことがある。

（障がい福祉課）避難行動要支援者名簿は行政で集約し、各コミュニティや民生委員へ情報提供している。

- ・都市部に住んでいる。近所の人も入れ替わりがあり、関わりがあまりない。自治会活動もしていないと聞いている。

（長尾先生）避難訓練の際、自分で民生委員に声をかけた。まず、民生委員へ連絡し、他に誰に連絡すればよいか相談した。民生委員はどこの地域にもいる。また、消防団員にも話を持ちかけ、快く参加してくれた。消防団員は若い人が多いので、参加してもらってよかった。

近所の人に知ってもらうことは大切。隠していると、いざという時に助けが得られない。勇気を持って話してみると、案外快く迎えてくれる。

- ・人工呼吸器をつけていると、夫婦2人での外出は難しい。